

令和6年度 第1回 勝山市生活交通地域協議会 会議録

1. 開催日時 : 令和6年6月26日(水) 午前10時～
2. 開催場所 : 市役所3階第1・2委員会室
3. 出席委員 : 下記のとおり※敬称略
4. 欠席委員 : 3名(下記備考のとおり)
5. 傍聴人数 : なし

区分	所属団体及び役職等	氏名	備考
学識経験者	福井大学 教授	野嶋 慎二	WEB
関係機関	福井運輸支局 首席運輸企画専門官	大館 久志	
	福井県地域戦略部 交通まちづくり課長	中出 博行	代理:吉川 優花 主事
	奥越土木事務所 勝山道路課技術次長	小島 高志	
	勝山警察署 交通課長	山本 寛明	欠席
	勝山市区長連合会 会長	大久保 満	
	勝山市高齢者連合会 事務局	尾方 則夫	
	勝山市民生委員児童委員協議会 会長	松田 敏男	欠席
	えちぜん鉄道株式会社 取締役 営業開発部長	佐々木 大二郎	
	京福バス株式会社 経営推進室 企画営業グループ 部長	松田 康弘	
	勝山交通株式会社 代表取締役社長	山内 誠司	
	大福交通有限会社 代表取締役	中村 雅彦	
	福井県交通運輸産業労働組合協議会	前川 剛	
市職員	政策幹	谷内 英之	
事務局	未来創造課 課長	小林 真紀	
	未来創造課 課長補佐	森 弘章	
	未来創造課 地域交通係長	廣田 篤史	欠席
	未来創造課 主事	織田 隆大	

令和6年度 第1回 勝山市生活交通地域協議会

1. 会長選出・挨拶

福井大学 野嶋教授が会長に選出された

2. 報告

(報告事項1～4について事務局から一括して説明)

(1) えちぜん鉄道の運行実績について【資料1】

資料1をご覧ください。

2ページがえちぜん鉄道全路線の利用者数の実績で、上の表が月別、下の表が年度別となっています。令和5年度の実績は359万8,903人となっております。えちぜん鉄道の利用者数はコロナ前までは開業以降、増加傾向にあり、最も多かった平成30年度は369万9,553人の実績があり、10万650人、約2.7%の減となっておりますが、前年度比では20万7,700人、約6%の増となり、新型コロナウイルス感染症の影響による減少からはほぼ回復したと考えられます。月別にみると、令和5年度は全体的に利用者が前年度よりも多くなっており、直近5年間ではコロナ前の令和元年度と並ぶ利用者であり、特に北陸新幹線が開業した3月は利用者が大きく伸びています。また、資料にはありませんが、通学・通勤定期や回数券等の日常型の利用はコロナ影響前の令和元年度比で103%と、コロナ前と同程度まで回復していますが、定期、回数券以外の利用は92%と観光などの非日常的な利用は回復しきってはおりません。

(2) 市内コミュニティバスの運行実績について【資料2】

資料2をご覧ください。

3ページの上の表が路線別、年度別の利用者数の実績、下の表が路線ごとの利用者の比率となっています。コミュニティバス全体でみると、令和5年度の年間実績は6万4,835人で令和4年度比1万173人、18.6%の増となっており、令和元年度実績が6万9,795人のため、ほぼコロナ前の水準に戻っています。路線ごとにみると、特に勝山駅から恐竜博物館へ向かう「ぐるりん中部」が大きく伸びており、観光客の利用が戻ってきていると思われます。他の路線についても概ね前年よりも利用者が増えている路線が多く、コロナの影響は無くなってきていると思われます。路線ごとの利用者比率を見ると多い順に「ぐるりん中部」が2万1,649人で全体の33.4%、「北郷予約便」が7,520人で11.6%、「平泉寺線、平泉寺・猪野瀬予約便」が7,308人で11.3%となっています。

4ページから6ページまでは観光バス「ダイナゴン」や恐竜博物館直通便を含めた路線別、月別の利用者数の推移となっております。「北郷予約便」及び「荒土・野向予約便」の野向方面について令和5年の1月下旬よりフルデマンドバスの運行を開始しております。7ページにフルデマンド部分の利用者数を抜きだした実績がございます。北郷予約便については、令和5年度が3月を除き一番利用者が多くなっており、利用者が増えています。野向予約

便についても利用者のバラつきが激しいものの、直近の利用状況では令和5年度が高い水準となっています。

（３）市町内交通分析シートについて【資料３】

資料3をご覧ください。市町内交通分析シートにつきましては、新型コロナウイルス感染症により落ち込んだ乗合バスの利用回復・促進に向けて、各路線の生産性向上のため、令和2年度より各市町にて作成しているものとなります。

対象路線は市町の生活交通維持支援事業補助金における補助対象路線となっており、当市においては、勝山交通（株）様と大福交通（有）様の運行する10路線が対象となっております。

内容としましては、①運賃体系等の路線の概要、②路線の運行回数・利用者数等の指標、③利用状況等から見た路線の必要性、④広域路線への接続状況、⑤生産性向上に関する取組の5項目による構成となっております。実績等については先に説明がありましたので、こちらでは⑤の生産性向上に関する取組についてご説明いたします。基本的にはどこか一つの路線にのみ限定した取組というよりも、全体的なものになりますので、最初のぐるりん中部のページをご覧くださいいただければと思います。

令和5年度における取組ということで、コミュニティバス無料券を発行する運転免許証自主返納等支援事業については、令和5年度の申請者数は95名となっており、前年度よりも26名増加しております。

池袋暴走事故があった令和元年度に返納が過去最多となり、以降はその反動もあってか、減少傾向にあります。免許を返納された65歳以上の高齢者の方を対象にバス無料券を配布しており、買い物や通院の際のバスの利用を促進しております。また、運転免許証の自主返納によるコミュニティバス無料券の申請手続きについて、昨年度より警察署でのワンストップ申請を開始しました。従来ですと警察署で免許証返納後に、別途市役所での申請が必要でしたが、勝山警察署と連携して警察署で申請が可能になりました。今後も自主返納の無料乗車券について広報PR活動などを実施していきます。

（４）令和5年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）の二次評価結果について【資料４】

まずはじめに地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）とはということですが、こちらは、地域の公共交通の確保・維持、利便性の向上等の取組みについて、国が支援するために創設された事業です。勝山市では平成27年にこの協議会で協議を経て国に申請し認定されました。以降は毎年ローリングを行いながら申請をしています。フィーダー系統とは、地域間交通ネットワークと接続する系統をいい、もう少し噛み砕いた言い方をしますと、複数の市町村をまたぐ路線、これを幹線としますと、幹線に接続する支線をフィーダー系統といいます。勝山市では、「京福バス勝山大野線」に接続している「北郷予約便（勝山交通）」と「平泉寺・猪野瀬予約便（大福交通）」の2路線が対象となっています。

この事業は、毎年春に計画を作成し、後ほどの議案にもありますが、本協議会で承認を得た上で提出し、冬に自己評価を実施し、国から評価を受けることになっています。

その評価結果についてが、資料4にあります資料が二次評価結果となります。

まず評価点についてですが、北郷及び野向地区でフルデマンドバスの運行を開始したこと、免許証自主返納者のバス無料券の交付申請のワンストップ化、県と連携したバスの燃料高騰への支援を実施したことが評価されています。

今後期待されている取組についてですが、フルデマンド運行について利用状況や地域の声などを把握・検証し今後に生かすこと、幹線系統勝山大野線の輸送量が減少傾向にあることから、情報共有や利用促進・系統維持について、県や関係者と連携しながら取り組んでいくことということとなっております。

●野嶋会長

今の事務局からの報告について、各事業者から補足説明等ございましたらお願いします。

●えちぜん鉄道 佐々木部長

勝山市から実績をご説明いただきましたが、北陸新幹線開業もあって3月のグラフが上がっているところで、4月・5月についても非日常型 観光の利用につきまして増加はしていますが期待していたほどではないという状況になっております。4月はコロナ前と比べますと107%ですが、5月は98%程となっていてしっかり増やしていかないといけないなと思っております。

●勝山交通 山内社長

コロナ前と比べますと、元々は地域の足ということでそこまで大きな変化はないかなと思っておりますが、やはりコロナが収まってからは地元の方の利用も増えてきたかなと思っております。

●大福交通 中村代表取締役

ぐるりんの中部方面に関しまして、やはり恐竜博物館に向かうお客様が増えてきているもしくは戻ってきていると感じていますが、コロナ前と比べるとそこまでではないかなというところがありますので、この辺りは今後協議していただきたいかなと思います。

●野嶋会長

ありがとうございました。

それでは、以上の報告に対しまして、質問等がありましたらお願いします。

●奥越土木事務所 小島次長

市内交通分析シートについて、大体の路線は高齢者や学生の利用が多くて、ぐるりん中部方面は博物館へ行く観光客が多いとのことなんです、それらのウェイトがどれくらいなの

かわかりましたら教えていただけますか。観光客の方が多く乗られて、市民の方が乗れないとかそういったことは無いのでしょうか。

●事務局

明確な数値は今ご用意していませんが、やはりクルマ社会といえますか、自身で運転できる方はクルマを利用されて、どうしてもクルマを利用できない方がバスを利用されているということで高齢者や学生の利用割合が多くなっています。

●大福交通 中村代表取締役

ぐるりん中部方面も恐竜博物館へ向かう直通便の穴埋めのような形で運行しておりまして、観光客の方は確かに多いですがすし詰めになってお年寄りが座れないとか車椅子の方が乗るスペースがないとかそういった状況にはなっていません。

●野嶋会長

ありがとうございました。それでは他に何か質問などはございますか。

(質問等無し)

それでは次に議題に移りたいと思います。事務局よりご説明をお願いします。

3. 議題

(1) 勝山市地域公共交通計画の一部変更(案)について

それでは、議題1と書かれた資料をご覧ください。

地域公共交通確保維持改善事業の補助を受けるための計画について次の議題で取り扱う所ですが、令和7年度の計画、つまり今回の議題で扱う計画より各市町で策定されている地域公共交通計画と補助申請の計画が連動していることが必要であり、地域公共交通計画内で各系統(路線)の位置づけや重要性、どの系統が補助を受ける系統(路線)なのか、地域公共交通全体の目標や評価手法が整理され記載されていること等が必要となりました。

勝山市では令和3年に勝山市地域公共交通計画を策定しているところですが、地域公共交通確保維持改善事業補助を受けるために、交通計画の一部を変更したいと思います。

まず、公共交通の現況について各交通系統の位置づけ、えちぜん鉄道が広域的な幹線でコミュニティバスが地域の支線、京福バスが地域の幹線であるといった地域交通における位置づけを記載する他、コミュニティバスが非常に重要な役割を持っているが事業者や自治体の運営努力だけでは維持が困難で補助により維持する必要があること、運行主体が行政なのか事業者なのか等を記載し、どの路線が地域公共交通確保維持改善事業補助を受ける路線なのかも明記します。また、計画における目標についてデータの取得方法を明確にする必要があるとのことで、一部どこからデータを取得するのかを追加で記載しております。

補助を受けるために必要な文面等を追加するのが主な変更内容となっており、勝山市が目指す地域交通のあり方等については特に変更などはございません。補助事業を受けるために必要な変更ですので、よろしく願いいたします。

●野嶋会長

今の事務局からの説明について、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

(質問事項なし)

それでは、議決に移りたいと思いますが、勝山市地域公共交通計画の一部変更について承認いただける方は拍手をお願いいたします。

(拍手多数)

ありがとうございました。賛成多数ということで議決されました。今後細かい訂正等がありましたら事務局で対応させていただきます。それでは、次の議題に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(2) 令和7年度生活交通確保維持改善計画の見直しについて

議題2と書かれた資料をご覧ください。

勝山市においては、市民が生活する上で必要な公共交通期間の運行・維持がなされているものの、夫婦共働きなどにより、免許証の取得率も高く、モータリゼーション(車社会化)が進展しているため、クルマが生活必需品となっています。また、商業・公共施設等の点在化が進み、クルマに依存したライフスタイルが市民の間に浸透・定着化しています。このような状況の中で、公共交通機関の利用者は年々減少を続け、生活交通の維持確保が厳しさを増しております。

そこで、平成23年から本協議会を設置し、勝山市に適した交通施策・運行スタイル等の研究を行ってきた他、他市町の視察や、各地区での意見交換会、住民意識調査等を重ねてきました。昨年度には勝山市地域公共交通計画を策定し、利用しやすい効率的な公共交通の在り方について、基本方針を定めました。

次ページをご覧ください。本計画の対象となる北郷予約便及び平泉寺・猪野瀬予約便の事業目標および実績、概要になります。令和7年度から令和9年度までの年間利用者数目標を資料のとおり決めました。また、参考として令和5年度時の目標値と実績値を記載しております。平泉寺・猪野瀬予約便については減少しておりますが、北郷予約便においては5年度の目標値を402人上回ることができました。

また、3番の「目標を達成するために行う事業及びその実施主体」については、マイ時刻表の作成や、乗り方教室の実施による利用促進。京福バス勝山大野線でのOD調査を実施し、分析結果に基づいた利用促進啓発。免許返納支援事業との連携強化による、車の運転に不安を感じている方々へのバスの利用促進を行ってまいります。

いくつか該当のない項目が続きますので、18番、19番をご覧ください。協議会等の開催状況の一覧とこれまでの意見の反映状況等となっております。次の議題にて取り上げますが、荒土地区でのフルデマンドバス運行を令和6年10月より開始予定です。

別紙1は各路線の目的・必要性について記載しております。

北郷予約便については、当該地域を区域運行することにより、区域内をきめ細かくカバーしながら中心市街地の医療機関や商業施設等への移動手段を確保することで、高齢者等交通弱

者の外出機会の拡大を図るとともに、これらの施設で地域間幹線系統等に結節することで、中心市街地への移動等、広域的な移動利便性を向上することを目的として運行するものです。また、平泉寺・猪野瀬予約便については、隣接する地区を走る平泉寺線を当該地域にも区域運行で乗り入れすることにより、これらの集落の高齢者やクルマを運転しない層を主たる対象として、中心市街地への移動手段を確保し、地区内の日常生活施設の利用利便性を向上させるとともに、路線バスとの乗継等による広域的な移動利便性の向上を目的として運行するものです。

別紙2については事業の効果ということですが、前述したとおり、移動手段の確保及び利便性の向上等を見込んでおります。

別紙3については、各路線の現在の運行時刻等になっております。北郷予約便はフルデマンドの区域運行、平泉寺・猪野瀬予約便は定時定路線と区域運行のハイブリッドになっており、毎日運行を行っております。

別紙4の運行予定者の決定方法については記載のとおり定めがございますが、大福交通様と勝山交通様にお願いする形となっております。

別紙5については、各路線等の関係性や整合性等について記載しております。北郷予約便については、北郷地区から勝山市中心部方面を通り大野市まで向かう広域的な移動を担う路線バスの空白時間帯に運行し、福井勝山総合病院や勝山駅で接続できるようダイヤを設定しています。また、従来、勝山市街地へのバス利用が著しく不便な時間帯に当該便を運行することにより、勝山市街地への移動が可能になっただけでなく、乗継による大野方面までの広域的な移動が期待できます。

平泉寺・猪野瀬予約便については、京福バス勝山大野線を補完するよう、路線バスの空白時間帯に運行し、かつ、大野方面への接続も考慮してダイヤを設定しています。当該路線の新設によって、従来路線バスへの乗り継ぎが困難であった平泉寺地区や、路線バスが運行しているがバス停まで遠かった猪野瀬地区において乗り継ぐことができるようになり、路線バスの利用増が期待できます。

表1については、運行系統の概要及び運送予定者になります。先述しましたとおり勝山交通様及び大福交通様に運送をお願いしております。運行系統については、どちらも勝山駅を起点に総合病院を經由し、各地区のバス停が終点となっております。以降の運行日数は365日、運行回数は、基本的には1日の運行回数に365日をかけて計算していますが、フルデマンドとなっている北郷予約便については、令和5年度の実績を計画運行回数としております。

表5は事業を行う地域の概要ということで、人口等は令和2年国勢調査の数字等をベースにしております。

●野嶋会長

今の事務局からの説明について、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

(質問事項なし)

それでは、議決に移りたいと思いますが、令和7年度生活交通確保維持改善計画の見直し

について承認いただける方は拍手をお願いいたします。

(拍手多数)

ありがとうございました。賛成多数ということで議決されました。こちらにつきましても今後細かい訂正等がありましたら事務局で対応させていただきます。それでは、次の議題に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(3) 荒土地区のフルデマンドバス運行とそれに伴うバス停の新設・移動およびフルデマンドバス運行エリアでの路線ごとのバス停指定の撤廃について

議題3と書かれた資料をご覧ください。

令和5年度1月25日よりフルデマンドバスの運行が開始されている北郷及び野向各地区のフルデマンド運行地区と隣接しており、地元地区からの要望も多かった荒土地区でフルデマンドバス運行を開始したいと思います。

運行概要は北郷地区や野向地区での運行と変わりません。車両は既存のフルデマンドバスをそのまま使用し、北郷、荒土、野向の3地区を2台で運行します。運行時間は日中8時から17時。運賃は100円～200円で、運行区域は資料をご覧ください。既存のバス停に加えて、バス停が遠いエリアに新しくバス停を新設します。また、荒土地区は一部エリア(道の駅やかじそ辺り)が鹿谷線に組み込まれていますが、フルデマンド運行中は鹿谷線の荒土地区バス停も停車できるようにします。資料として各バス停の設置個所の拡大図を新規停留所設置予定図としてつけております。この資料に、既存のバス停と新設予定のバス停の地図を記載しております。なお、地元地区からの要望で伊波のバス停が現在地だと狭いため、伊波コミュニティセンターへ移すこととしたいです。(移動距離としては数メートル～十数メートル程度です)

なおフルデマンドバスの運行開始は今年の10月を予定しています。

また、荒土地区がフルデマンドバス運行となるに伴い、フルデマンド運行地域における路線ごとの停留所指定を撤廃し、北郷・荒土・野向の3地区を1つのエリアとし、このエリア内の停留所間を自由に移動できる広域でのデマンド運行を実施していきたいと思います。これに伴い、現在路線ごとに設定されている運賃についてフルデマンド運行用の運賃を新しく設定したいと思います。基本は従来と変わらず、近場は100円で遠いと200円で、障害者は無料等も変わりません。現在は路線ごとに100円と200円の境界が曖昧なのですが、概ね4キロが境目となっていますので、4キロ未満を100円、4キロ以上を200円としたいと思います。この他、時刻表については定時定路線も運行しておりますので、従来の時刻表も使用しますが、資料にありますようなフルデマンド運行については停留所を記載したマップを作成し、乗降できるバス停を図示して皆様に周知できたらと思っております。

●野嶋会長

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移りたいと思いますが、広域エリアでのデマンド運行とのことですがこの北郷地区から野向地区に行くことは今まではできなかったのでしょうか。

●事務局

いままでですとバス一本で行くことはできませんでした。一旦共通のエリアである市中心部の農協会館前等まで向かって、そこから別地区のデマンドバスに乗り換える必要がありましたが、今後はそういったことが解消されて、より自由に乗降場所を選ぶことができるようになります。

●野嶋会長

ありがとうございました。この他にご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。
(質問事項なし)

それでは、議決に移りたいと思いますが、荒土地区のフルデマンドバス運行とそれに伴うバス停の新設・移動およびフルデマンドバス運行エリアでの路線ごとのバス停指定の撤廃について承認いただける方は拍手をお願いいたします。

(拍手多数)

ありがとうございました。賛成多数ということで議決されました。こちらにつきましても今後細かい訂正等がありましたら事務局で対応させていただきます。

●事務局

この議題の運賃に関しましては昨年10月より協議会ではなく運賃協議会にて協議することが必要と改正されております。申し訳ありませんが、運輸支局、区長会長、勝山交通のお三方は協議会終了後もお残りくださいますようお願いいたします。運賃について、承認いただいた議題を基にさらに詰めさせていただきたいと思います。

●野嶋会長

それでは次の議題について、説明をお願いいたします。

(4) 恐竜博物館直通便の変更について

●大福交通 中村代表取締役

コチラの議題については大福交通から説明させていただきたいと思います。勝山市さんで資料をご用意いただいているようなのでご覧いただきたいと思います。単純に利用者の少ない最終便(第15便)を廃止させていただきたいというものです。実績ですと300~400人程度の人数が記載されているかと思いますが、年間でこの数字ですので、1日に直すと1人か2人程度の利用で、ジオターミナルのアルバイトの子が帰りに利用するのが大部分です。これらのよく最終便を利用する方には、あくまで予定としてですが既に周知を行っておりましてご理解はいただいています。また、この恐竜博物館直通便は1日通して一人の運転士で回しておりますが、ドライバーの勤務時間の改正もありまして最終便(第15便)まで運行するのが難しくなっている面もあります。

●野嶋会長

今の説明について、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

●えちぜん鉄道 佐々木部長

最終便の廃止については、大福交通さんの経営のことでありますのしょうがないかなと思いますが、廃止はいつからを予定しているのでしょうか。

●大福交通 中村代表取締役

来月の7月1日からを予定しております。(会議開催日が6月26日)

●えちぜん鉄道 佐々木部長

そこまで早いとなると、えちぜん鉄道の情報を修正しきれない可能性がある。観光客向けにバスのダイヤを掲載している配布物等について、第15便が掲載されたままとなってしまう場合もあるが、そこはご留意いただきたい。

●大福交通 中村代表取締役

それはしょうがないと思っている。お問い合わせがあればコチラから説明させていただく。また、バス停での掲示等で周知していく。

●事務局

市としてもホームページ等で周知を実施していきたい。

●野嶋会長

利用者の方にしっかりと情報が周知されるようにしていただきたい。

それでは他にご質問等ございましたらお願いします。

(質問事項なし)

それでは、議決に移りたいと思いますが、恐竜博物館直通便の変更について承認いただける方は拍手をお願いいたします。

(拍手多数)

ありがとうございました。賛成多数ということで議決されました。

4. その他

●野嶋会長

それでは、4番目 その他としまして何か報告事項などがございましたらどのようなことでも構いませんので、交通全般について話し合う場ですので何かありましたらお願いいたします。

(その他の報告事項等なし)

●野嶋会長

ありがとうございました。

以上をもちまして勝山市生活交通地域協議会を終了させていただきます。

みなさま、ご協力ありがとうございました。

令和6年度 第1回 勝山市生活交通地域運賃協議会（協議会終了後に開催）

●事務局

会議が終了した後にお残りいただきありがとうございます。

先ほどもご説明させていただいた通り、新しく運賃を設定する場合は自治体、運輸支局、事業者、市民の代表を交えて運賃協議会にて協議する必要があります。既に、先ほどの協議会にてお話しさせていただきましたが、新しく荒土地区を含めて広域エリアでのデマンド運行を開始するにあたりまして、4キロ未満であれば100円、4キロ以上であれば200円とし、障がい者等は変わらず無料とする旨を説明させていただきましたが、何かご意見等がございますでしょうか。

●区長連合会 大久保会長

私からは特に意見などは無いです。しっかりと周知を行っていただければと思います。

●事務局

新しい運賃表を作る必要があるが、広域エリアとなったことでかなりの数のバス停となる。全てを一つにまとめようと思うと、おそらくA3サイズでもおさまらないような巨大な運賃表になってしまうため、北郷⇄荒土の場合や荒土⇄野向の場合のように個別に分けたものを作成する形でよろしいか。

●勝山交通 山内社長

個別の運賃表で大丈夫です。一つにまとめられてしまうと、大きすぎて逆に使いづらくなると思います。運輸支局への届け出もそれで大丈夫ですか。

●福井運輸支局 大館首席運輸企画専門官

運賃表を一つにまとめないといけないといった規定はないので問題ないです。

●事務局

他にご意見等はありませんか。

（質問事項なし）

ありがとうございました。以上で運賃協議会を終了させていただきます。